

六回シリーズ 「貯蓄から投資へ」

(第5回)

「気軽にできる「投資」、それが「投資信託」です」

分散投資の考え方について、外国では昔から有名な諺(ことわざ)があります。

それは「卵を一つの籠に盛るな」というものです。

一つの籠に全ての卵を入れると、籠を落とすと全ての卵を失ってしまう。いくつかの籠に卵を分けて入れると、籠を一つ落としても卵を全て失うことはない、という話だそうです。

『投資信託』は、専門機関が複数の投資家から資金を集め、これを一つのファンドとしてまとめて運用し、その収益を分配する投資商品のことです。

① 少額の資金でOK
複数銘柄への分散投資を通常、一万円前後からできます。

② 専門家が運用
「投資」に情報は欠かせません。情報の判断は難しいものですが、専門家が情報を収集し、高度な運用を行います。

③ 世界中が投資対象
個人では投資することが難しい地域などにも手軽に投資できます。

④ リスクも低減できる

分散投資を商品化したものですから、リスクの分散もできます。

※「投資信託」が投資する株式や債券は、証券市場で取引され、常に値動きがあります。その値動きを利用して収益を生み出す訳ですが、一方で値下がりするリスクもあります。従って、元本保証ではなく、場合によっては投資元本を下回ることもありますのでご留意ください。

いま、日本は従来の常識では、はかりきれない変化の時代にあります。したがって、今後のご自分の生活設計を考えた時、果たしていまの「貯蓄」だけで、十分な備え、蓄えを用意することができのでしょうか？

日本の投資信託市場にとって、二〇〇六年は歴史的な年となりました。日本国内の投資家が保有する投資信託の残高は、八月末に史上初めて一〇〇兆円を越え、

その後も拡大を続けています。そのような環境下、昨年十二月に投資信託協会か

ら発表された平成十八年度「投資信託に関するアンケート調査」は今後を見通す上で非常に興味深い内容となっております。

現在すでに投資信託を保有している方が、投資信託を購入した「目的」ですが『老後の生活資金』が四十四・一%と際立って高くなっています。今年より、いわゆる団塊世代の方の退職が始まることから、投資信託市場のさらなる拡大を予感させます。また、第二位は『資産のリスク分散』のためで三二・五%となっております。

昨年は、国内外の株式や債券などに分散投資するパランス型ファンドの拡大が日本の投資信託の残高拡大をけん引した感があります。まさにアンケート結果を裏付ける形となっております。

次に、投資信託を購入するときに決め手となった「理由」ですが、『分配の頻度・実績』が三七・五%で、『値上がり期待』の三七・三%とほぼ同率です。昨年は、『配当に注目した投資を行い、定期的な分配金を期待できる株式ファンド』も人気を集めました。分配金も値上がり益も重視するという投資家の存在が

大きく影響したことがわかります。

高齢化社会の到来に加え日本の金融市場は、自由化へと厳しく変化しています、

規制に保護された時代とは異なり、世界中の金融市場から自分の責任であなたに

あった有利な運用法を選べる時代になりました。こうなると、「投資」の考え方がとても大切になります。でも、まだなんとなく、「投資」は自分には縁がない

とか、「投資」には危険が伴っているから……という風に、お考えの方も多くいらつしやるようです。

ただし、「投資」も「貯蓄」もお金の運用に関しては、程度の差こそあれ、必ず「リスク」(予測通りにならない不確実性)を伴います。

投資の秘訣は、運用に時間をかける「長期投資」と、複数のものに投資する「分散投資」です。『投資信託(ファンド)』は、まさに「投資」の入門編ともいえる商品なのです。

「なるほど！投資信託」
「ノムラファンド21 (v o i . 31) より抜粋
野村證券 新潟支店
ファイナンシャルアドバイザー課
青柳 加代子
TEL 025(225)7755(代)